

## (事業名) 秋の祭典

(団体名) 向島駅前まちづくり協議会

平成27年度 助成金額 101,028円 主な実施場所 向島ニュータウン中央広場

**事業目的・概要**—「秋の祭典」は、向島駅前まちづくり協議会が向島ニュータウンで地域住民の交流と地域の活性化を目的に開催している祭りです。平成20年から（平成22年までは、「春の祭典」）毎年開催しているこの「祭典」も2000人余の住民が参加するこの地域になくはならない祭りとなっています。今年の「秋の祭典」では、「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」のモデルケースとして「祭り」を実施することにより、参加住民に「ごみ問題」への意識を喚起し、地域の「ごみ減量」につなげていくことを目標に「祭り」を企画し、実施しました。

**取組内容**—今年8月、今年度「秋の祭典」実施の検討を始めるにあたって、1)「秋の祭典」を「ごみ減量」実践の場とすること、2)「祭り」のプログラムに「ごみ減量」の必要性をアピールするなどの「舞台」、「展示」の内容を方針確認し、企画・準備を進めた。

平成27年8月 4日(火) 19:00~21:00 第1回「平成27年度秋の祭典」実行委員会  
〃 9月24日(火) 19:00~21:00 第2回 〃  
〃 10月 1日(木) 19:00~21:00 第3回 〃  
〃 10月23日(金) 19:00~20:40 第4回 〃  
〃 10月24日(土) 13:30~18:00 会場設営  
〃 10月25日(日) 10:00~15:40 「秋の祭典」開催

### 〔具体的取組み〕

(1) ポスター(A3 200枚)、チラシ(A3(両面) 5,000枚)は再生紙を利用した。ポスターは、向島ニュータウンの1~11街区内の掲示板に掲示するとともに関係機関に掲示を依頼した。チラシは1~6街区全戸(約4,500戸)にチラシを配布した(500枚は、入場者用)。

### 「ポスター」



### 「チラシ」



(表面)

(裏面)

(2) 模擬店等のどんぶり・皿などの食器は、リユース食器を使用し、会場内で出たペットボトル、アルミ缶等は、リサイクルするため「京都市分別リユースごみ箱」を借用し、分別回収を徹底した。リユース食器は、「東日本大震災復興支援募金呼びかけ」ふるまい芋煮400食分(どんぶり)、模擬店「愛隣館」「二の丸学区・1街区有志」などで皿を使用した。



リユース食器(どんぶり) (皿)

(3) 省資源, ゴミ減量の意識を高めるため, 1) 家庭に残る古本, 古着など不要品の提供を住民に呼びかけ, フリーマーケットを開催した他, 2) 伏見エコまちステーションの協力を得て, 開催チラシとあわせ全戸に「(乾電池, 小型家電など)回収」の通知を配布し, 祭り会場での資源物回収を実施した。



フリーマーケット

資源物回収

(4) 「ごみ減量」に対する住民の意識を高めるため, 今年10月に発効した『しまつのこころ条例』の趣旨説明を伏見まち美化事務所次長にお願いし, 住民との質疑応答を行うなどして, 「ごみ減量」の促進を住民にアピールした。また, 「ごみ減量」に関する展示ブースを設置し, パネル展示やアンケートを実施した。

(住民からの質問と回答)

1) ごみ袋の開封の実例を教えてください。住民だけでなく, ごみの分別・減量の徹底を要請してほしい。(女性・60歳代)

(回答) 京都市では, 今のところ, 開封の実例はない。よほどのことがないと開封はない。

2) これから市民に『しまつの心条例』を良く知ってもらうために, どのような方法をとるのか? (男性・50歳代)

(回答) これからも, 機会をとらえて広報していきたい。

3) 有料ごみ袋の収入の使い道を「市民新聞」などでもっと公表してほしい。(男性・70歳代)

(回答) 今もできる限り公表しているが, これからも公表に努めたい。



『しまつのこころ条例』の説明



住民との質疑応答



展示パネル



アンケート用紙

## 〈成 果〉

### 1. 「ごみ減量」の実践

1) ポスター，チラシを再生紙で印刷した。

ポスター（A3 200枚），チラシ（A3（両面） 5,000枚）は再生紙を利用した。ポスターは向島ニュータウン内の掲示板に掲示，関係機関に掲示を依頼した。チラシは約4,500戸に配布した。

2) リユース食器を使用した。

ふるまい芋煮400食分（「東日本大震災復興支援募金呼びかけ」），模擬店「愛隣館」「二の丸学区・1街区有志」などで使用した。食器回収には，住民の協力が得られた。

3) ごみ分別回収を徹底した。

「京都市分別リユースごみ箱」を借用し，住民の立ち合いのもと分別回収を徹底した。

4) 古着，古本などをフリーマーケットで販売・交換と家電製品などの回収を実施した。

古着・古本の他，不要日用品などの販売・交換でにぎわった。伏見エコまちステーションによる家電製品などの回収実施には，多くの資源ごみが持ち込まれ，資源ごみの再利用の重要性を再認識する機会になった。

### 2. 「ごみ減量」の住民へのアピール

1) 『しまつのこころ条例』を住民に周知した。

今年10月発効の『条例』に合わせ，その趣旨を伏見まち美化事務所次長に説明いただき，タイムリーに住民にアピールすることができた。質疑応答の時間が短かったのが残念である。

2) 「ごみ減量」の意識を展示パネルとアンケートにより喚起した。

「ごみ減量」をアピールする展示パネル「ごみ減量どうしますか？」（2枚）とアンケートを実施したが，説明など十分な対応の体制がとれず，成果を得ることができなかった。なお，今後，機会をとらえて「ごみ減量」につなげるアンケートなどを実施したい。

3) エコ学区サポートセンターの協力出展

エコ学区サポートセンターから「わくわく発電遊び～いろんな電気を作ってみよう」，「うちエコ・ご家庭の省エネ&節約法をアドバイスします」をご出展いただいた。子供だけでなく，大人にとっても分かりやすく，地球温暖化防止に省エネ・エコライフの実現が重要であることを体験することができました。ご協力・ご支援を感謝いたします。



(団体名) 向島駅前まちづくり協議会

【代表者】 会長 福井 義定 【主な活動地域】 向島ニュータウン

【ウェブサイト】 (あれば URL を記載)

### 【設立の目的】

向島駅前にあった商店やハンバーガ店が撤退し、平成17年、その空き地に葬儀場設置計画が持ち上がり、これに反対する住民運動を契機に、向島駅前へのコンビニエンスストアの誘致や地域の活性化などを活動目的として、同年10月に「向島駅前まちづくり協議会」が結成されました。その後、活動地域を向島ニュータウンに広げ、①住民が共に助け合うまちづくり、②住民が憩う緑豊かなまちづくり、③健康福祉のまちづくり、④安心安全のまちづくりなどを目標に活動をしています。

### 【主な活動内容】

#### 1. 「秋の祭典」(平成22年までは「春の祭典」)の開催

毎年1回、住民の交流と地域の活性化を目標に開催している。プログラムは、「舞台」、「展示即売」、「模擬店」の三つに大きく分けられます。「舞台」は住民活動の発表の場でもあり、地域の小中高生の吹奏楽、大学生のバンド演奏や住民のフラダンス、大学生のよさこいソーラン踊りなどが出演しています。「展示即売」は地域住民や団体(病院、包括支援センター、障害者福祉施設、介護老人保健施設、地元農家、伏見エコまちステーションなど)が、パネル展示で活動を紹介、相談・指導ブースの設置、野菜・作品の即売などを行います。その他、自治会や福祉施設、大学などが模擬店を出します。

#### 2. 向島中央公園の清掃活動

平成20年3月に向島駅前まちづくり協議会の下に向島中央公園愛護協力会を結成し、公園の清掃活動を実施しています。平成25年8月からは、地域の福祉施設の職員が活動に参加して、清掃活動だけでなく、公園の小川にメダカやホタルを放流するなど公園の自然を豊かにする活動も行っています。

#### 3. 向島ニュータウンの住民の生活環境調査

平成25年1月、住民の高齢化が急速に進む中、向島ニュータウンの1街区~6街区の住民(4315世帯)と中国帰国者(約300世帯)を対象に第1回「健康福祉のまちづくりアンケート」を実施しました。このアンケート結果を受けて、当まちづくり協議会は、高齢者の包括ケアの今後の課題に取り組んでいます。

#### 4. 高齢者の包括ケアシステム構築事例の調査

平成26年9月4日、千葉県柏市、同医師会、東京大学が連携し設置した医療・介護施設「柏地域医療連携センター」とこの地域の「UR豊四季団地」を見学しました。今年1月14日、八幡市、同社会福祉協議会、「男山団地だんだんテラス」(URと関西大学、市が連携して作った高齢者の居場所)を見学しました。

#### 5. 向島ニュータウンの防犯パトロール

1街区と5街区の住民が中心となり、向島ニュータウンの防犯パトロールを行っています。